



## 8年連続で達成率低下

### 【鉄棒運動実態調査を春に実施した目的】

「児童の実態を把握し年度内に効果的な指導ができるようにするため」という理由で、令和5年度からは春に鉄棒運動実態調査を行っています。2学期以降も、継続的な指導をよろしくお願いします。

### 【足抜き回り調査結果】

	30年度	R5年度	R6年度	R7年度
2年生	85.7%	80.6%	77.2%	75.3%
1年生	85.9%	72.7%	67.8%	66.0%

### 【考察】

平成30年度の記録と比べて、逆上がりでは、多くの学年で20%近く下がり、後方支持回転と足抜き回りでは、10%近く下がっています。

子供たちの力を付けていくためには、**運動の楽しさや喜びに触れる**機会を増やすことが重要です。「**体育の時間にやったことを昼休みにも実践してみたい**」と思えるように、技に関連した運動遊びを取り入れたり、技能を段階的に高めながら活動したりといった指導が求められます。**2学期以降も、引き続き指導をお願いします。**

また、「体育経営ハンドブック 器械運動系のリスクマネジメント」の中に、鉄棒運動の内容も掲載されています。合わせて御一読ください。

### 【後方支持回転調査結果】

	30年度	R5年度	R6年度	R7年度
6年生	29.4%	19.3%	17.7%	17.9%
5年生	24.1%	17.1%	16.9%	15.4%
4年生	24.3%	15.6%	14.2%	14.6%
3年生	18.9%	13.7%	12.0%	11.9%

### 【逆上がり調査結果】

	30年度	R5年度	R6年度	R7年度
6年生	77.1%	63.7%	61.0%	58.1%
5年生	70.8%	59.8%	57.9%	53.7%
4年生	68.8%	55.9%	50.9%	50.9%
3年生	58.9%	51.7%	47.2%	47.4%

## ◎鉄棒運動の力を伸ばすために、単元計画も工夫してみましょう

同じ授業時間数でも、指導方法を工夫すれば鉄棒に触れる機会は増やせます。以下は単元計画の例です。

### 案1 単元を年間で2回に分ける

例) 鉄棒の単元が5時間ある場合

春…3回 → 鉄棒調査で現状を把握する。

秋…2回 → 積み上げてきたことをいかして新しい技に挑戦する。

鉄棒	1学期	2学期	鉄棒	3学期
----	-----	-----	----	-----

メリット

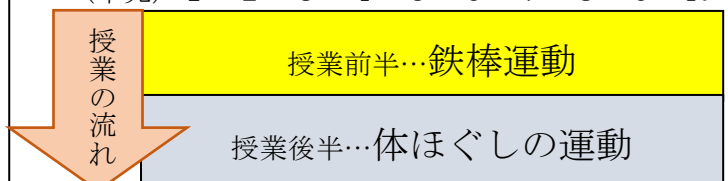
- ①実態に合わせて継続的に指導ができる
  - ・春に実態をつかむことで、継続的に付けたい力を付けることができる。
- ②年間を通して鉄棒運動の技能を高められる
  - ・跳び箱等で養う支持感覚、巧緻性
  - ・マット運動で養う回転感覚、平衡感覚 など

### 案2 別の単元と組み合わせる

例) 鉄棒と体ほぐしの運動の単元が5時間ずつある場合

授業前半…鉄棒20分 後半…体ほぐしの運動20分  
→ 鉄棒運動と体ほぐしの運動で計10時間実施。

(単元) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



メリット

- ①鉄棒に触れる機会（授業時間）が増える。
- ②短時間の活動のため、マメや筋疲労の防止になる。